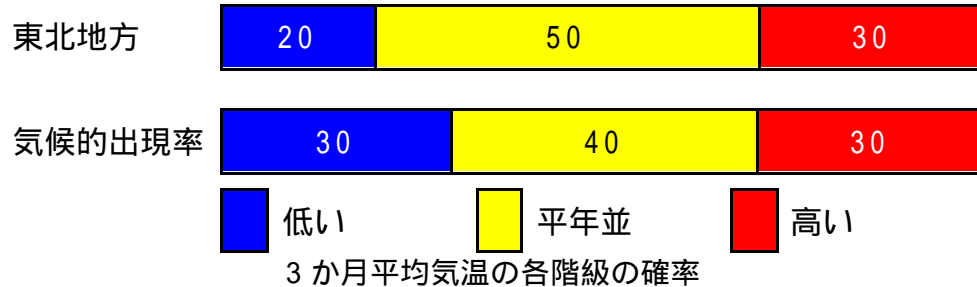


東北地方 3 か月予報（6～8 月）の解説

平成 12 年 5 月 22 日 仙台管区気象台

1. 予想される天候

（1）3 か月平均気温の予想される各階級の確率（％）



〔概要〕

6～8 月の 3 か月平均気温は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。「高い」の可能性が次に大きく、その確率は 30％です。「低い」の可能性は小さく、その確率は 20％です。

（2）可能性の大きな天候の特徴

	6 月	7 月	8 月
気圧配置	梅雨前線や低気圧 オホーツク海高気圧	梅雨前線や低気圧 オホーツク海高気圧 太平洋高気圧	太平洋高気圧
天 気	東北日本海側は平年と同様に天気は周期的に変化するでしょう。東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多く、オホーツク海高気圧の影響で、気温の低い時期がある見込みです。	東北日本海側は平年と同様に天気は周期的に変化するでしょう。東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多く、オホーツク海高気圧の影響で気温が低く、ぐずつく時期がある見込みです。	東北地方は平年と同様に晴れの日が多いですが、寒気や前線の影響で曇りや雷雨の時期もあるでしょう。
気 温	平年並 気温の変動が大きい	平年並 気温の変動が大きい	平年並
降 水 量	平年並	東北日本海側 平年並 東北太平洋側 多い	平年並

なお、6～8 月の 3 か月間の降水量は「平年並」の可能性が大きいでしょう。

< 参考資料 >

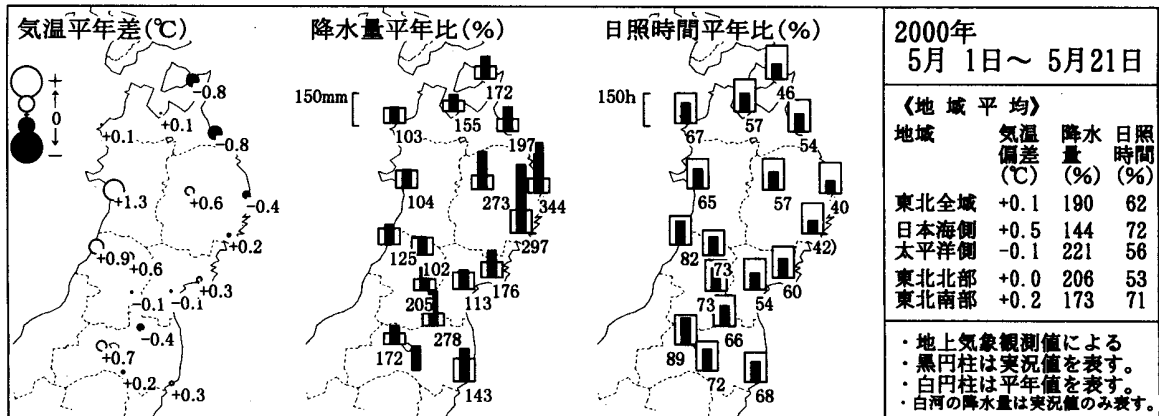
平年のおおよその天気出現割合（％）

	6 月		7 月		8 月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	52	47	50	44	62	55
雨の日	35	35	36	36	31	33

注：季節予報では、「日照率 40％以上の日数」、「日降水量 1mm 以上の日数」を晴れの日、雨の日の目安として用いている。この 2 つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。日照率は、1 日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

2. 最近の天候経過と循環場の特徴

(1) 最近の天候経過



東北地方における5月(1～21日まで)の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

5月(21日まで): この期間の平均気温平年差は東北日本海側で+0.5 と平年を上回り、東北太平洋側で-0.1 と平年を下回った。降水量平年比は、東北日本海側で 144%、東北太平洋側では 221%と共に平年を上回った。日照時間平年比は、東北日本海側で 72%、東北太平洋側では 56%と共に平年を下回った。

上旬は、上空に寒気を伴った低気圧やオホーツク海高気圧の影響で東北部を中心に曇りや雨の日が多かった。1～4日にかけては上空に寒気を伴った低気圧の影響で大気の状態が不安定になり、各地で雷雨となった。特に、3日は岩手県で記録的な大雨となり、列車が運休するなど交通障害が発生した。3日の日降水量は、宮古で 119.5mm、大船渡で 124.0mm(5月として第2位)、盛岡で 76.0mm(5月として第1位)を観測した。5～7日にかけてはオホーツク海高気圧の影響で東北太平洋側では湿った東風が入り曇りの所が多かったが、東北日本海側ではおおむね晴れた。8日には上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定となり、岩手県では落雷により死者1名、東南北部では宮城県を中心に降雹により果樹を中心とした農作物等に被害が発生した。9日は移動性高気圧に覆われおおむね晴れたが、10日にはオホーツク海高気圧の影響で東北太平洋側では湿った東風が入り、曇りの所が多かった。

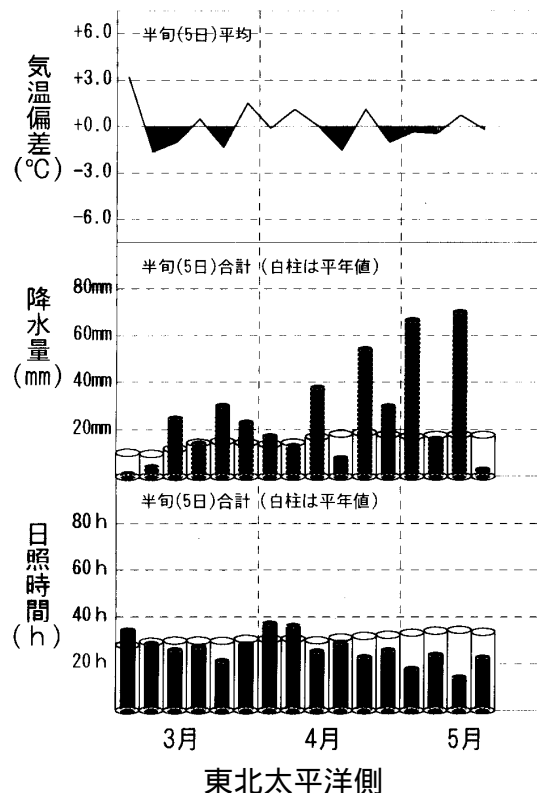
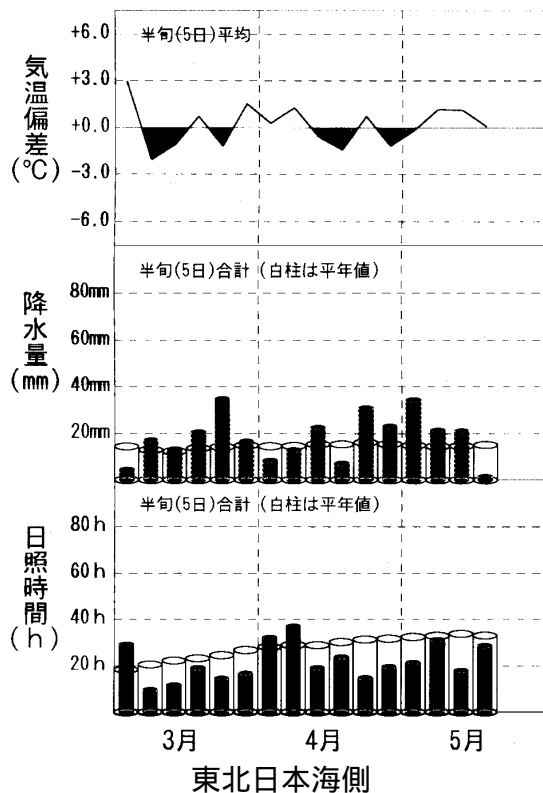
上旬の平均気温平年差は東北日本海側で+0.5、東北太平洋側で-0.4 と共に平年並だった。降水量平年比は、東北部で 307%とかなり多く、東南北部では 167%とやや多かった。日照時間平年比は、東北部で 53%とかなり少なく、東南北部では 86%と平年並だった。

中旬は、上空に寒気を伴った気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で、東北太平洋側を中心に曇りや雨の日が多かった。11日はオホーツク海高気圧の影響で東北太平洋側では湿った東風が入り曇りとなったが、東北日本海側ではおおむね晴れた。12～14日は、東北地方を次々に気圧の谷が通過したため曇りや雨の日が続き、東北太平洋側では所々で大雨となった。15～16日は移動性高気圧に覆われ東北太平洋側では晴れたが、東北日本海側では寒気の影響で曇りとなった。17～18日は、オホーツク海高気圧や本州南岸を進んだ低気圧の影響で東北太平洋側では湿った東風が入り曇りの所が多かったが、東北日本海側では概ね晴れた。なお、18日には上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定となり、岩手県では落雷により1名が死亡したと見られる。19日は高気圧に覆われ東北地方は晴れたが、20日には台風第2号から変わった低気圧が日本の南海上を進み、東南北部を中心に雨となった。

中旬の平均気温平年差は東北地方で+0.3 と平年並だった。降水量平年比は、東北日本海側で 72%と平年並、東北太平洋側では 190%とやや多かった。日照時間平年比は、東北日本海側で 70%、東北太平洋側では 55%とかなり少なかった。

21日は、上空に寒気を伴った低気圧が通過したため大気の状態が不安定となり、各地で雨や雷雨となった。

なお、盛岡地方気象台では5月9日と12日に日照不足に関する岩手県気象情報を発表した。

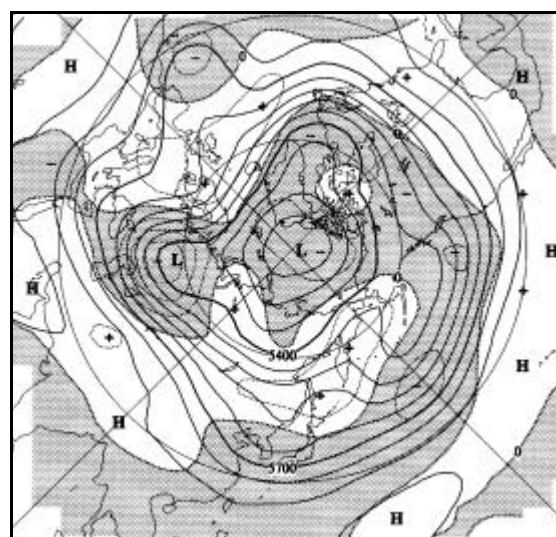


半旬経過図

(2) 中・高緯度の循環

5月(21日まで): 極東の40°N以北は正偏差、それ以南は低緯度に向け負偏差となっており、偏西風の蛇行が大きく寒気の南下しやすい状態が持続した。

サハリン付近の気圧の尾根に対応して地上ではオホーツク海高気圧が北日本に張り出し、東北太平洋側では湿った東風の影響を受け曇る日が多かった。また、沿海州から西日本にかけては気圧の谷となっており、北日本では上空に寒気を伴った低気圧の影響を受けやすく、大気の状態が不安定となって雷雨やひょうとなる日もあり、曇りや雨の日が多くなった。



5月1～21日平均500hPa天気図
等高線間隔60m
陰影部は平年より高度が低い領域

(3) 熱帯太平洋の状況

エルニーニョ監視海域(北緯4度～南緯4度、西経150度～西経90度)の4月の海面水温偏差は、+0.2であった。

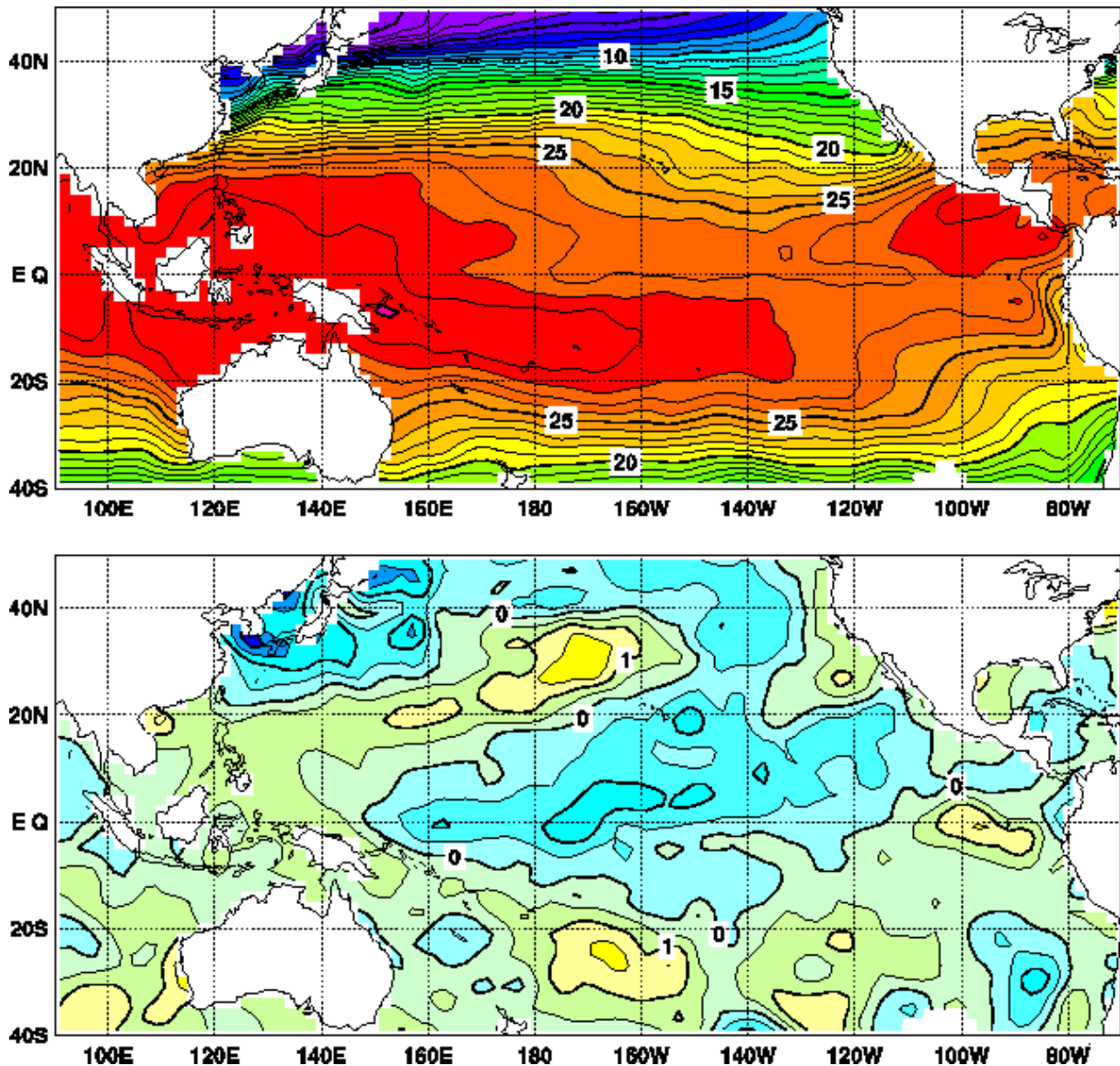
4月の太平洋赤道域の海面水温は、東経150度から西経115度にかけてと西経85度以東で平年より低く、日付変更線から西経170度にかけて-1以下の負偏差が見られた。一方、東経145度以西と西経110度から西経90度にかけて平年より+0.5以上高く、西経100度付近では+1以上の正偏差が見られた。

4月の南方振動指数は+1.4(暫定値)であった。(南方振動指数は貿易風の強さの目安であり、正(負)の値は貿易風が強(弱)いことを示す。)

エルニーニョ監視指数

エルニーニョ 監視海域	1999 年								2000 年			
	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
月平均海面水温 ()	26.4	25.5	24.8	24.0	23.8	23.6	23.2	23.4	23.8	25.3	26.6	27.3
平年偏差 ()	-0.2	-0.6	-0.4	-0.6	-0.8	-1.0	-1.4	-1.5	-1.6	-0.9	-0.3	+0.2
5 か月移動平均 ()	-0.3	-0.5	-0.5	-0.7	-0.8	-1.1	-1.2	-1.2	-1.1	-0.8		
南方振動指数	+0.3	+0.1	+0.6	+0.0	-0.1	+1.1	+1.1	+1.5	+0.4	+1.1	+1.0	+1.4

注：海面水温の平年値は、1961～1990 年の 30 年平均値である。



2000 年 4 月の海面水温図（上）及び平年偏差図（下）

海面水温図の太線は 5 毎、細線は 1 毎の、平年偏差図の太線は 1 毎、細線は 0.5 毎の等値線を示す（平年は 1961～90 年の 30 年平均値）

（４）エルニーニョ監視海域の海面水温の今後の見通し（2000 年 5 月～2000 年 11 月）

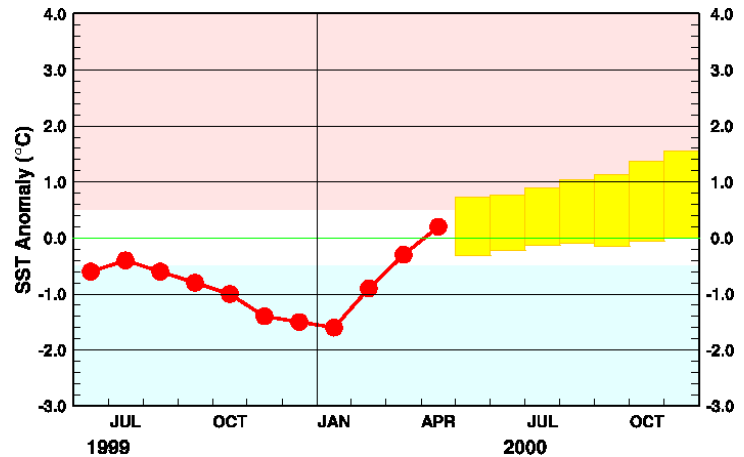
今回のラニーニャ現象はほぼ終息したものと見られる。夏以降エルニーニョ監視海域の海面水温は平年よりもやや高い状態で経過すると予測される。

【解説】

東部太平洋赤道域の海洋表層ではここ数か月水温の負偏差が急速に弱まり、一部では正偏差も現れた。また、監視海域の海面水温偏差は1998年7月以来初めて正の値になった。このように、海洋ではラニーニャ現象終息の兆候が明瞭になってきた。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が今後平年よりもやや高い、あるいは高い状態で推移すると予測している。

以上を総合的に判断すると、ラニーニャ現象はほぼ終息しており、夏以降監視海域の海面水温は平年よりやや高い状態が続くと考えられる。しかし、南方振動指数(+1.4)にも見られるように、現在のところ貿易風は依然強く、西部太平洋赤道域にある暖水の大規模な東進も見られないため、最近の監視海域における海面水温偏差の変化がそのままエルニーニョ現象の発生へ結びつくかどうか今の段階では明らかでない。



エルニーニョ予測モデルによる

エルニーニョ監視海域の海面水温偏差予測

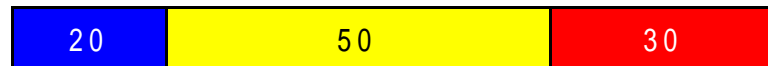
3. 前回(4月20日)発表の3か月予報からの変更点

7月 降水量 東北太平洋側 平年並 多い

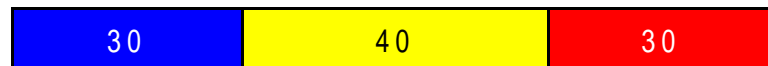
4. 夏(6~8月)の天候の見通し

最近の天候経過等をふまえて検討しましたが、3月13日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。

東北地方



気候的出現率



低い



平年並



高い

夏(6~8月)平均気温の各階級の確率

梅雨入り・明け日と梅雨期間降水量（mm）

年	東南北部					東北部				
	梅雨入り	梅雨明け	山形	仙台	福島	梅雨入り	梅雨明け	青森	秋田	盛岡
1951	6月04日	7月18日	116.0	222.7	186.0	6月10日	7月23日		165.3	221.5
1952	6月23日	7月20日	211.8	194.2	168.3	6月30日	7月20日		171.1	164.2
1953	6月05日	7月26日	212.9	336.0	269.7	6月05日	7月28日		315.2	298.2
1954	6月06日	7月23日	270.0	477.4	377.1	6月11日	8月01日		165.6	142.0
1955	6月15日	7月08日	184.0	162.0	113.3	6月15日	7月09日		312.2	215.4
1956	6月20日	7月24日	332.4	405.2	437.1	6月20日	7月25日	132.2	262.7	261.3
1957	6月18日	7月29日	280.8	311.4	269.9	6月18日	8月10日	160.2	381.3	261.1
1958	6月08日	7月14日	85.3	138.4	116.0	6月11日	8月01日	226.2	410.0	392.6
1959	6月01日	7月25日	343.7	356.3	330.8	6月07日	7月25日	160.6	413.8	345.2
1960	6月21日	7月17日	127.9	120.6	123.8	6月27日	7月18日	65.8	180.9	116.0
1961	6月21日	7月20日	169.4	217.4	211.6	6月24日	7月28日	215.1	341.3	310.1
1962	6月03日	7月22日	296.5	253.7	309.7	6月03日	7月25日	82.8	244.4	221.3
1963	6月03日	7月26日	247.2	298.8	361.1	6月19日	7月27日	247.8	286.5	236.9
1964	6月08日	7月22日	309.1	329.3	231.8	6月08日	7月25日	246.6	296.2	213.6
1965	6月14日	7月24日	301.6	306.7	266.9	6月18日	8月06日	268.1	381.4	379.8
1966	6月04日	7月25日	405.6	370.9	347.6	6月16日	8月07日	348.7	537.0	437.3
1967	6月26日	7月15日	88.9	161.3	127.1	7月03日	7月18日	46.3	114.2	102.9
1968	6月16日	7月19日	142.5	173.0	230.0	6月20日	7月23日	34.0	98.5	149.0
1969	6月17日	7月14日	87.5	149.0	164.5	6月22日	7月14日	20.0	55.5	79.0
1970	6月15日	7月20日	76.0	106.0	78.0	6月18日	7月20日	71.5	98.5	112.0
1971	6月03日	7月29日	233.0	244.0	194.0	6月11日	7月30日	162.5	368.5	336.5
1972	6月12日	7月30日	163.0	207.0	135.5	6月20日	8月06日	211.5	335.0	325.5
1973	6月06日	7月13日	136.0	89.0	83.5	6月07日	7月13日	37.0	32.0	50.0
1974	6月04日	7月26日	263.0	381.5	338.0	6月06日	8月03日	289.0	375.5	396.5
1975	6月05日	7月16日	124.0	158.5	206.0	6月12日	7月19日	147.5	275.0	277.5
1976	6月05日	7月22日	229.5	234.5	155.5	6月08日	7月23日	98.0	177.5	125.5
1977	6月11日	7月22日	136.0	195.0	166.5	6月11日	7月22日	111.0	126.5	145.0
1978	6月11日	7月05日	166.0	142.0	214.5	6月11日	7月08日	176.0	215.5	105.5
1979	6月08日	7月30日	337.5	303.0	267.5	6月08日	8月08日	330.5	751.5	574.0
1980	6月08日	7月22日	284.0	342.5	232.0	6月09日	8月03日	165.0	327.5	377.5
1981	6月11日	7月16日	248.0	233.0	263.5	6月11日	7月17日	239.5	527.0	276.5
1982	6月23日	8月07日	177.5	209.5	218.0	6月24日	8月07日	55.5	255.5	126.5
1983	6月13日	7月27日	213.5	387.5	271.0	6月13日	7月29日	128.5	229.0	257.0
1984	6月10日	7月22日	115.5	168.0	122.0	6月10日	7月22日	124.5	285.0	307.5
1985	6月08日	7月16日	199.0	356.0	302.0	6月08日	7月19日	152.0	295.5	261.5
1986	6月17日	7月28日	246.0	311.5	163.5	6月17日	7月28日	170.5	227.0	305.5
1987	6月25日	8月09日	237.5	179.0	104.5	6月27日	8月09日	242.0	401.0	230.0
1988	6月09日	7月31日	191.0	372.5	276.5	6月09日	7月31日	123.5	81.5	147.0
1989	6月15日	7月21日	106.0	231.0	150.0	6月15日	7月21日	72.5	83.0	80.0
1990	6月15日	7月20日	187.0	215.5	178.5	6月15日	7月27日	166.5	501.5	463.5
1991	6月10日	7月27日	395.5	451.0	378.0	6月10日	8月14日	371.0	705.0	564.0
1992	6月08日	7月24日	240.5	238.0	352.5	6月08日	7月29日	125.0	143.0	209.5
1993	6月03日	特定しない	-	-	-	6月03日	特定しない	-	-	-
1994	6月19日	7月12日	114.0	114.5	95.0	6月19日	7月13日	94.5	155.5	89.5
1995	6月03日	7月23日	244.0	263.0	262.5	6月14日	7月23日	95.0	224.0	305.0
1996	6月10日	7月24日	162.5	239.5	169.0	6月11日	8月06日	188.0	341.5	320.5
1997	6月02日	7月18日	382.5	366.5	242.0	6月02日	7月17日	130.0	226.0	225.0
1998	6月03日	特定しない	-	-	-	6月03日	特定しない	-	-	-
1999	6月16日	7月24日	287.5	482.5	462.0	6月16日	7月26日	136.5	165.0	238.5
平年	6月12日	7月23日				6月14日	7月26日			

注 1) 入り、明けの時期（平年値も含む）は掲載した日付に「頃（ころ）」を付けて読み替える。

注 2) 平年は、1961年から1990年の平均値である。

注 3) 「梅雨入り（明け）が早い・遅い」は遷移期間の概ね中日で比較して、平年との隔たりが4日以上の時（東北部、南部共に）をいう。

注 4) 梅雨期間の日数について、入り明けの時期は遷移期間の概ね中日をとり「～頃」として発表しているため、統計を行わない。

注 5) 各年の降水量は日単位の降水量の合計値（入りの時期の概ね中日から明けの時期の概ね中日の前日まで）

注 6) 梅雨期間の降水量について、各年の梅雨期間の長さ、入り明けの時期が異なるため、平年値の統計は行わない。

そのため、平年比は使用できない。同様の理由で昨年比も使用できない。